

令和4年度 第1回 鶴岡市立藤沢周平記念館運営委員会（会議概要）

- 日 時 令和4年7月6日（水）午後1時45分～
- 会 場 新茶屋別館
- 審議事項 1 協 議 （1）酒井家庄内入部400年記念企画展
〈「海坂藩もの」にみる庄内藩〉（仮称）
（2）特別展示並びに第20回企画展のテーマについて
- 2 報 告 （1）令和3年度記念館運営状況（後期）について
- 3 その他
- 出席者 監修者 遠藤展子、遠藤崇寿（オンライン）
運営委員 湯川豊（オンライン）、鈴木文彦、栗原正哉、庄野音比古、
東山昭子、堀司朗、本間豊、山口朗
鶴岡市 布川敦（教育長）、本間明（教育部長）
藤沢周平記念館 沼沢紀恵（館長、オンライン）、伊藤典子（主査）、
鈴木晃（シニアディレクター）、長村俊太郎、
齋藤冬華、楨麗
運営支援業務受託社 穴澤亮（トータルメディア開発研究所）
- 公開・非公開の別 非公開
- 非公開の理由 顕彰する個人の情報を含むため

1 協 議

（1）酒井家庄内入部400年記念企画展〈「海坂藩もの」にみる庄内藩〉（仮称）

■提案内容

- 趣 旨 酒井家庄内入部400年記念企画展の後期展示として、庄内藩と「海坂藩」をテーマとした展示とする。「海坂藩もの」に形を変えて描かれた庄内藩を彷彿させる歴史や文化を、藤沢周平氏が執筆の参考にした鶴岡市史や鶴岡・庄内に関する歴史資料などとともに紹介する。
- 名 称 酒井家庄内入部400年記念企画展〈「海坂藩もの」にみる庄内藩〉（仮称）
- 会 期 令和4年11月18日（金）～令和5年5月30日（火）
- 監 修 者 堀司朗氏、本間豊氏
- 展示内容
 - （1）庄内藩と「海坂藩」
 - （2）「海坂藩もの」に重なる庄内藩の面影
 - （3）作品に描かれる庄内の生活・文化
 - （4）「海坂藩もの」の四季

○ミニギャラリー

庄内を彷彿とさせる場所が描かれる「海坂藩もの」作品の紹介

○図 録

- (1) 制作部数 2,000部
- (2) 規 格 A4判 本文40頁前後
- (3) 内 容 展示内容の抄録、寄稿

〈意見など〉

- ・展示内容の(2)「海坂藩もの」に重なる庄内藩の面影のところは専門的な話であり、ここをつくるのが一番大変かと思う。郷土史に興味のある見学者だけを対象にするわけではないので、誰が見ても簡単にわかってもらえるような工夫を考えていただきたい。
- ・どんな資料を展示するかが問題となる。企画展をきっかけとして本を読むようなところがあるわけで、きっかけをつくるような目玉となる資料の選択を行ってほしい。
- ・つくる側は同じ資料を何度も使うことはマンネリになると思うかもしれないが、見学者はいつも同じではないし、何度見ても飽きないところもあるので、マンネリを恐れずに同じ資料を何度も使っていていいと思う。記念館の役割は藤沢周平を知ってもらうことであるので、同じことを繰り返しやることも大切だと思う。
- ・コロナでなかなか移動できない時に、庄内藩をテーマとした企画展をやることは、庄内藩の歴史が藤沢作品に反映されていることを地元の人を知るよいきっかけになると思う。
- ・コロナ禍で藤沢作品が映像化されたものを見る機会が増えた。これは作品を読み返すきっかけになっていると思う。次に放送が予定されている番組などの情報提供があるとよい。
また、企画展見学者が書いた感想を時々SNS等で発信できるといいのではないかと思う。

◆協議結果

- ・頂戴した意見を踏まえて、内容を記念館監修者、企画展監修者と相談しながら、資料の見せ方を工夫することとし、原案を承認する。

(2) 特別展示並びに第20回企画展のテーマについて

- ①特別展示テーマ案〈蓬田やすひろ氏原画展〉
- ②第20回企画展テーマ案〈直木賞受賞50年記念企画展〉

◆協議結果

- ・案を承認する。

2 報告

(1) 運営状況について

■内容

平成3年度入館者数、書籍等販売実績及びソフト事業実施状況について報告

〈意見など〉

- ・鶴岡公園の整備により記念館への回遊が期待されるころなので、共通券の活用とあわせて検討してほしい。

3 その他

〈意見など〉

- ・全国の博物館でもこの2~3年はコロナで計画中のものが延期されたり、入館者が少なくなることから閉館したりとどこも運営には苦勞されていたと思う。そんな中で、展示の非接触化、VRミュージアムをつくるといった話が聞こえて来たが、そこで感じたのは、そもそも館に来てもらうというのはどういうことなのか、デジタルで配信してしまえばそれで十分間に合うのではないかというところだが、直筆資料が見られる、郷土の本物の資料が見られることが最終的に最大の価値になるのではないかとあらためて思った。作品と鶴岡の市史を対比することはとても面白い試みであり、藤沢先生と郷土のつながりはどういったものがあるのかということに興味を持って館にやってくる人が多いと思うので、地元の歴史と作品がどうつながっているのかを見せていくことはとても価値のある企画だと思う。
- ・バーチャル映像などで記念館に来なくても展示が見られるというようなことは今後考えていく必要があると思う。しかし、藤沢周平と鶴岡、庄内との結びつき、鶴岡に対する想いが強い作家だったということもあり、ファンとしては聖地巡礼ではないがその場所に行くことにすごく価値があると思う。また、外からみれば鶴岡はとてもいいところなのだが、地元の人が鶴岡の本当の良さに気づいていないように思うので、記念館を通して鶴岡の良さを知ってほしい。